

予備校の視点から ～傾向と対策～

東進ハイスクール・東進衛星予備校
(株式会社ナガセ)

東進では、低学年の生徒が共通テストと同じ問題を同じ日に受験できるよう、「共通テスト同日体験受験」を実施した。「情報Ⅰ」について、受験生(高3生)の自己採点結果と、「共通テスト同日体験受験」を受験した低学年の生徒のうち、高2生の結果を並べると、以下のようになった(図1)。

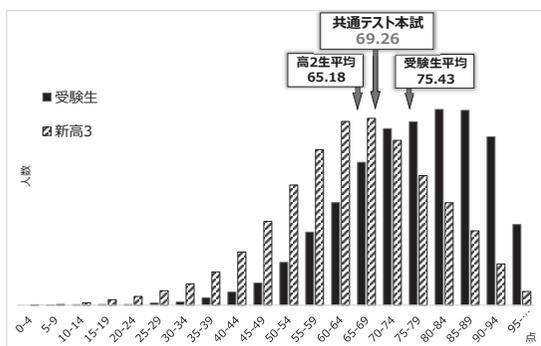


図1 「情報Ⅰ」合計得点分布 (東進生)

図1より、大学入試センターが公表する共通テスト本試験「情報Ⅰ」の平均点は69.26点と非常に高いものであった。グラフの中で示している受験生や高2生の平均は東進生だけのデータであるが、受験生が75.43点、高2生は65.18点と、どちらも非常に高いものとなっている。問題で与えられた文章を読み取るだけで解けるような問題が多く出題されたことから、受験生のみならず高2生でも高い平均点となったと考えられる。

また、どの大問においても概ね良い成績が見られるが、第3問「プログラミング」や第4問「データの活用」では、受験生と高2生との間で正答率に10%ポイント以上の差が見られた(図2)。これらの問題は特に、共通テスト形式での演習を積むことが大事であるため、基本理解は低学年のうちで完成させ、早期から演習を進めていけるようにしてほしい。

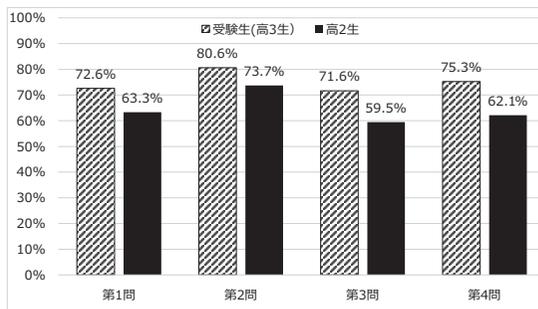


図2 大問別正答率

加えて、第3問で出題された「プログラミング」では、試作問題同様、問1は文章から条件を読み解いていくだけの問題であったため、非常に高い正答率であった(図3)。しかし、問2の「キ」から実際にプログラムの穴埋めをしていく設問に入り、正答率は受験生・高2生ともに低くなる。「キ」でつまずいてしまうと、以降の問題に影響が出るため、「情報Ⅰ」で高得点を取るためにはプログラムの穴埋めをきちんと正解することがカギとなる。よって、ただ教科書ベースでプログラミングのルールを理解するだけでなく、共通テスト形式の演習もしっかり行う必要があると考える。

問題番号	設問	解答記号	配点	受験生正答率	高2生正答率
第3問 (25)	問1	ア	1	98.5%	97.1%
		イ	1	97.3%	95.2%
		ウ	2	95.8%	93.4%
		エ	2	94.0%	91.0%
	問2	オ	2	92.0%	87.7%
		カ	2	96.8%	94.0%
		キ	3	70.8%	48.8%
	問3	ク	2	30.6%	14.5%
		ケ	2	60.8%	43.2%
		コ	2	63.1%	47.9%
サ		3	54.5%	39.6%	
		シ	3	50.8%	28.5%

図3 第3問(プログラミング)設問別正答率

なお、2026年度の共通テスト本試験「情報Ⅰ」は、2025年度に比べ難化しうるため、どのような問題がきても対応できるよう、教科書レベルから基礎基本をしっかり理解し、そのうえで共通テスト形式の演習をたくさん積んでいくことが大切だ。

株式会社ナガセ
URL : [https:// www.toshin.com/nagase/](https://www.toshin.com/nagase/)
問合せ先 : info.ktest@toshin.com